

茶道筌蹄

五

79
1408
2





明 9多  
雜 1408  
卷 2

茶道筌蹄卷之二

目錄

懸物

表具名所

同筆者

諸家茶道

和漢禪師

大德寺歷代

和漢画家

連歌師



○茶道筌蹄卷之二目錄



茶道筌蹄卷之三

○懸物之部

一文字風帯中上下の表具を宋朝ソウテウの製之是成  
畧して色々好みとあり

真表具

本紙の綴り細き筋乃入き糸といふ佛表具三  
幅對の中裏をふり此筋と匂ひといふ

帷トウ摺ボウ

兩脇の廣さぬいふせをたハ一寸八分より無物より  
一尺一と幅く廣さを用也併し一尺乃下と通したるは  
より一尺さきふし

輪摺

兩脇乃せをたといふ口よりより無物より一尺一  
より一尺くるる





徐熙表具

宋朝製の寸法より一文字をまじりし

あり珠光の好し

表具の寸法 一文字の上より一寸あり下より一寸あり中より一文字の上より四倍しを四寸中の下より一寸あり上より四寸を半割を二寸より上下の上より一寸あり中の上より一寸あり一尺二寸より上下の下より一寸あり上より一寸あり寸あり何れもけ割を少し下より一寸あり風袋の無物の巾一尺あり七分あり中横の無物の恰好見合

表具名所

軸

唐紙半切の巾を出八分

フタゲ 象牙 角 塗物 本地類

紐

紐は針くはあり杖と用也

表木

上の表木は入るる木

上巻緒

浅黄

巻緒は木より緒は巻物の表紙のごとく

無緒

釘へ無緒はの緒あり

糸木

サナタの糸糸の名は淡黄と紺の糸をとり

あり巻緒といふ也

掛棹

長サ二尺八寸矣若竹と用也

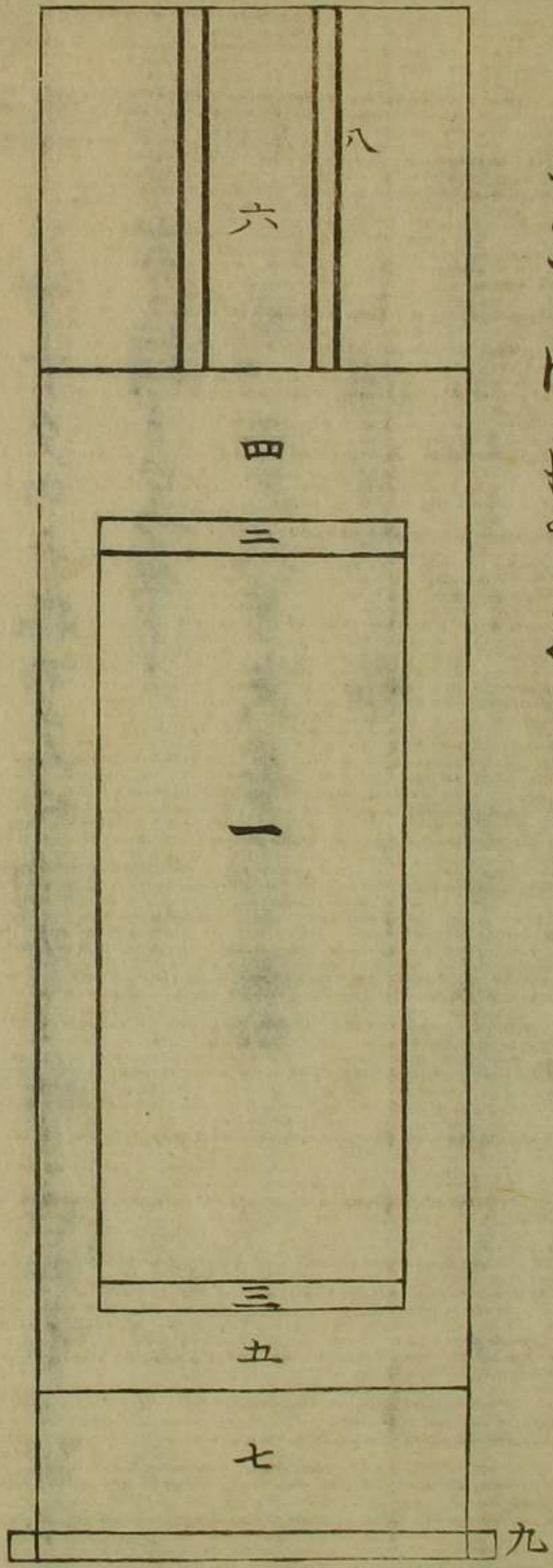
紙表具之始

紙表具の始は利休居士英嶺和尙の文と紫地巾全の一文字よりなる我の中風帯浅黄紙の上と用ひられしと我輩は文字風帯と去るふの張風帯小きくは元伯好く



魚物と見ると得

本紙一文字中上下風袋袖一二三四順成其  
是申の時ハナリテ...



○同筆者

○千家歴代

不審庵歴代の事ハ茶社の傳ハ要一之記  
ハバ云々賛也

不審庵利休宗易

抛笠斎

天正十九年辛卯二月廿八日卒以年七十

嫡子道安

一吐齋

眠齋

天正十五年丁亥七月初日卒以

二代少庵宗淳

慶長十九年甲寅九月七日卒以

三代元伯宗且

吐齋

万治元年戊戌十二月十九日卒以壽八十二

嫡子閑斎宗拙

兼應二年癸巳閏五月六日卒以

四代江岑宗佐

蓬源齋

堪笑齋



寛文十二年壬子十月廿七日卒以年六十

五代良休宗佐 随流斎

元禄四年辛未七月十九日卒以年四十二

三甫宗巴 友流斎

元禄二年己巳五月廿一日卒以年二十四

六代原叟宗佐 芳流斎

享保十五年庚戌六月廿六日卒以年五十二

七代天然宗佐 如心斎 丁々斎

寶曆元年辛未八月十二日卒以年四十七

八代伴昇宗佐 吟咏斎

文化五年戊辰十月六日卒以年六十五

九代了心宗佐 好雪斎

文政八年乙酉八月七日卒以年五十一

補

十代吸江宗佐

○今日庵歷代

元伯宗且

幼代仙叟宗室 今日庵

元伯の弟又男初め医と學ぶ後江戸に於て加州庵へ

召出され禄百五十石代賜ふ元禄十年丁丑正月

廿二日卒以年七十六 諱世日

虚忠の弟と云ふ事多し其人多く出ると云ふ

二六宗且 山月法衣の兄明方の子孫



二代常叟宗室 号常山 不体裔

松山慶德 仁宗元年甲申五月十四日卒 以年三十三

三代恭叟宗室 六宗孫

享保十二年丙午八月廿一日卒 以年二十九

四代竺叟宗乾 最裔

享保十八年癸丑二月二日早世

五代一燈宗室 又玄孫 勿之軒 梅舍墨

明和八年辛卯二月二日卒 以年五十

六代石翁宗室 不見裔

享和元年辛酉九月廿六日卒 以年五十六

七代柏叟宗室 銀得裔

補

文政五年丙戌七月廿四日卒 以年五十七

八代靈白堂宗室

官休庵歷代

初代一翁宗守 似休裔

享松慶德 仁宗元年乙酉十二月十九日卒 以年三十三

二代文叔宗室

寶永五年戊戌正月廿二日卒 以年五十一

三代真伯宗室 靜之裔

延享二年乙丑三月十八日卒 以年五十二

四代堅叟宗室

天明二年壬寅二月六日卒 以年五十八



五代圓明宗也

漢圃

啜齋

六代好々宗也

○諸家茶人

珠光

村田氏初名之茂吉文龜二年壬戌八月十八日卒以

壽八十

宗珠

真福寺中之教院の下勅之光見立之嗣也

多居引拙

引拙ハ宗珠列号とも又珠光門人ともいふ

いづまの末洋

竹倉屋紹滿

或其中倉屋ニ作之引拙と名を存す以

泉左海ニ住以紹滿ハ人

松本珠報

山名殿亮珠光ハ人京東洞院ニ住止樂と

号以南都松屋所持之三種ハ此珠報より傳來以

藤道其

珠光門人京師の人あり茶棚ハ此人の所持

栗岡日善法

無傳傳茶人子取茶全を一生伝承すむ

子より全伝承すハ口伝ハ出づ其

種歟之と人ハ傳承す

古市播磨

名之澄胤南都の僧院を寺の代友珠光

門人古市を二万石領以松本珠報ハ三種之

傳來ハ後松屋ハ傳承

石黒道提

四十石の壺代以持と子孫承傳す

紫野正受院ハ所持の茶具あり



最福院 珠光門人與福寺中

尊教院 曰

宗悋 珠光の門人十四屋といふ全甫又休部と号し

蜂谷宗悋と号し列人あり

宗陳 珠光乃門人堺北の端に住し

空海 相阿弥の門人東山殿の小姓俗稱た京後よ山向

道陳の食客とありて道陳の書院式と傳ふ

大富善幸 珠光門人あり休部よ名物の善師あり

利休是と傳ふ一を善善の善師といふ

深見珠徳 珠光門人南都の應徳之善師茶七坊

製法世に珠徳といふ

譽因屋宗室 左海に住し

武野紹鷗 大黒庵一閑居士と号し茶と宗悋宗陳

二人の学友弘治元年乙卯十月廿九日卒し年又十三

小向道陳 竹田氏利休始めの師あり永禄十一年戌戌

正月十八日卒し年五十九

重 宗甫 播屋といふ名物の凡紅墨子と傳ふ宗甫

柳是あり

津田宗達 天王寺屋といふ宗及の父紹鷗の門人

津田宗及 宗達の子更進無天信と号し天正廿二年

辛卯八月九日没し

依久百不干 紹鷗の門人名の宗達政實の男法名松泉宗



岩寛永八年辛未四月廿七日卒以年七十六

武野宗瓦 紹鴎の男光徹と号以名を為久初名ハ

新五郎慶長十九年甲辰八月廿六日卒以

辻 玄哉 紹鴎の門人基子と号と利徳と号す

今井宗久 紹鴎の孫信長公の茶道時庵庵壽林と云

河 宗堂 天外と号以紹鴎の孫宗久の寧子信長公の

茶乃後よ宗初よ石出よ外寛永四年丁卯四月

十一日卒以壽七十六

神谷宗湛 信孫善四郎貞清後善助と号筑前

博多の人なり宗久の門人後よ古溪和名よ宗孫以

博多文林の茶入と筑前彦へ姓し五百石と賜ふ

寛永元年甲子六月没以

織田信長公 平清盛二世の孫從一位右大臣法名春岩

宗安と号以天正十一年壬午六月二日薨以年

四十九博多の高井宗叱といひ孫茶人信長公ハ

御所持の名宗孫見と号し一二年京よ止り

京中の茶室と見ふをきり上りてわが道皇女が

目よを給へしと信出さる依りて二年京よ

逗留しを再び彫むれが本能寺ししと

評見可給信村と号す御名宗清取号世に

中一宗と号し其夜明智の乳よ依りて

焼失せり







彌川三齋

冬後從二位越中守忠與正保二年乙酉

十二月二日逝去壽八十二法名松向寺三齋宗立

瀨田掃部

名ハ伊勢初ハ武左衛門正忠播磨三田の城主

一万石瓜原寸文祿四年乙未七月六日卒以年

四十八湖といふ尾の卒茶碗と信持以刺鉢此

茶碗と信之カハ先度と茶七と刺鉢以是ハ

倣<sup>ナラフ</sup>と刺<sup>ナラフ</sup>了<sup>ナラフ</sup>由<sup>ナラフ</sup>掃部初ハカハ先度

牧村兵部

玄教古補貞勝伊勢宗子の城主之文祿

元年壬辰五月十二日朝鮮の地に於て病死以

年四十八法名松高院一巻淨向

古岡織部

從五位下織部正八万石と領一印齋と

号以元和元年乙卯六月十一日故有そ死後

賜ふ年七十二法名金甫宗屋

○右七哲の次第ハ江岑筆記の説より

數内紹智

劍仲 緝禦堂 菽中齋 燕庵

始ハ尾崎と領一後京入と云家元菽中教と

身と壽世甚後故有そ本教寺と信ハ寛永四年

丁卯五月七日卒以壽九十二

山園宗無

櫻の任人任吉屋宗右衛門の先祖之幼名ハ

捨十郎南溪と号以大徳寺安室和者の父之

豊太閤と信ハ寧ろ松永彈正の子之長長十八年

癸丑十一月十九日没以



万代屋宗安

利休の尊竹漢と号し慶長廿年乙卯

四月廿六日死

河 宗貫

宗安の子道安の尊一吐斎と号し其子

与吉郎有言家又仕て島重直といふ

山上宗二

堺山上の人利休の門人を豊太閤の茶道

のうの一瓢庵筆記と著し太閤御前を其子

の茶と侍侍し其子の茶を仕りし

とを鼻削<sup>ツヒ</sup>を逐放<sup>オヒハナ</sup>するより此の野山に隠る

其時の狂歌よ

美の茶を子に点を執るとを

はふとを斬くも落る御茶道

小堀遠江守政一

藤原姓小堀新助正次の男江州小室の

一万六百石代官守茶道と江州和者より傳来

其の月々宗及の子より正保十年二月二日卒去

年六十九

佐久間守監真勝

従父佐下大膳亮勝之の男織部門人より

寛永十九年壬午十月廿二日卒去年五十九

法名寸松庵山隱宗可居士と号し寸松庵

且那より

浅井権十郎政尹

小堀遠州兼浅井家重子元禄七年

甲戌八月四日卒去年七十

素山左近重長

和州郡山の城主従父佐下左近守監田雲



宗仙と号し寛永廿年壬申七月七日卒。以壽八十石洲公始の沙より後石洲公と勅りて道安と師とせしむ。

多賀左邊常長 佐々木の家人茶と佐久呂茶山の両家より学ぶ。

本阿弥光悦 徳友無火虚庵と号し寛永十四年

丁亥二月二日卒。以壽八十刀剣目利の家より

茶に有樂古織より傳ふ。

舟越伊豫守 從五位下吉孫後永景茶山左邊乃

族より茶道へ遠州公門人より寛文十一年

辛亥九月朔日卒。以壽七十四

永井信齋

從四位下信濃守岩政城州濱の城主なり

遠州門人寛文八年戊申九月十一日逝去。年

八十一

伊丹屋宗不

堺の住人一傳と号し遠州門人寛永七年

庚午九月十八日没。以壽六十五

園宗坊

本國寺の僧利休門人故より還俗し

利休の聲とあり其子醫と業とを傳ふ。園野

道哲といふ

金出雲守長邊

五郎八郎後より兵部少輔法永玄英と

稱し利休門人慶長十一年丙午八月卒。以

壽八十四



同 宗和 名是重近出雲可重の子長近の孫之  
慶長十九年薙髮明曆二年丙申卒以茶  
道之出雲者より傳來以初宗任し後予  
加州彦の客分となり子孫又亦多く平士とあり

片桐石見守貞昌 松隱庵頓祓二叔宗関と号は延室  
元年癸丑十一月廿日逝去茶と業山左近より  
字は後道安と号は以

○壹州 舟越 石抄と世は二宗道と稱は  
松浦肥前守信 平戸の藩主より万二子石と号は石抄の父  
信首座 龍安寺中大珠院の僧不遠庵と号は元  
伯門人元禄九年丙子正月九日寂は

藤村庸軒 名は當直友古庵微翁と号は元禄十二年

己卯望九月十七日没は壽八十八元伯門人之  
久田又四郎房政の子より十二屋源玄湯の  
家と嗣く

久須貝疎安 洗竹庵鶴巢と号は庸軒の門人享保  
十二年丁未五月八日死は壽九十二

久田宗全 原叟実父半原庵と号は本居利玄湯  
の子より母は江岑の妹元禄の外孫より寶永  
四年丁亥五月六日死は年六十二

同 宗也 半庵不及秋と号は宗全の男宗全入主乃  
姪より宗全の妻の子とあり寛保四年甲子正月



十二日死 享年六十二

山田宗偏

四方庵又不容庵刀圍庵周字と号 幼

日蓮宗の僧なり 宗成元徳と号す 後より還俗

して小笠原佐渡守殿の茶道と号す 寛永

五年戊子四月没 以壽八十六

秋本普祚

俗名大寺史 入庵得矣庵有爰庵と

の号あり 瑞夢の子 伊勢山田の漸沙あり 元徳

門人 寛永二年丙戌六月廿一日卒 以壽七十九

法名悦 譽宗喜

土肥二三

土岐ともいふ 自在軒と号し 有樂茶道と

貞並と傳へ 貞安二二より傳へ 享保十七年

壬子正月六日没 以壽九十四 法名豊隆居士

○又宗通といふ

珠光

紹臨

利休

織初

遠州

右五家と世に五宗通と称す

○和漢禪師

和漢の古徳是に張るべし 況と云ふも古師の  
用ひし名に類例よりを考へり 考ふるに

田悟克勤

五祖の嗣あり 真覚禪師紹興二年乙卯

八月己酉寂し

○東山殿の茶席と周しられし 愈抱はるる

唐画ありしが公志を以て 珠光の室へけり

茶法伝問ふより 珠光田悟の墨跡と愈あり



夕れを公も筆にと愈ふ是茶席に筆臨  
用由於温養有り回悟有り大徳寺に法縁有  
由茶人も祖とて之を心珠光の法持せし  
回悟の善法ハ一休和尙の所持有り

大慧宗杲 回悟の嗣有り普覚禪沙と号以隆興を  
癸未八月九日寂以年七十五

虎邱紹隆 回悟の嗣有り紹興六年丙辰寂以

拙庵徳光 大慧の嗣之佛照禪沙と号以

蜜庵咸傑 在庵の嗣有り龍光院に此和尙の善法

有り遠州に於て善法を用由於を乞ひて一席に  
好むる是と世に蜜庵庵と号

少林妙寫 徳光の嗣有り佛印禪沙と号以

北洞居簡 徳光の嗣有り教叟と号以

偃溪廣聞 浙翁の嗣有り景定四年癸亥二月十四日

寂以壽七十五

物初大観 北洞の嗣有り

晦機元奘 物初の嗣有り佛智禪沙と号以延祐

六年己未室八月十七日寂以年八十二

藏叟善珍 妙法の嗣之嘉定十五年五月廿一日寂以

元叟新瑞 藏叟の嗣有り普照禪沙と号以至正

元年辛巳八月十一日寂以壽八十八

松源崇岳 蜜庵の嗣之嘉定二年八月四日寂以年七十



曹源道生

蜜庵の嗣あり

癡絶道冲

曹源の嗣あり石州云々善政試一生用い

られし

無準師範

破庵の嗣之友云々冬中又冬源の沙と

以田照源沙と号以淳祐九年三月十日寂以

明彦崇西

和僧

宋の虚庵の嗣之建仁寺の開山子光

因沙と溢以建保三年七月又日寂以年七十六

牧溪法常

無準の嗣あり

断橋妙倫

無準の嗣あり

希叟绍曇

無準の嗣あり

西嵩了惠

無準の嗣景定二年二月十一日寂以

年六十九

無學祖元

無準の嗣あり因覺寺の開祖之佛元

因沙と溢以子代能尼の沙あり弘安九年九月

三日寂以年六十九

兀庵普寧

無準の嗣文應年中飯化して西か茂

正傳寺開祖とあり宗寛源沙と号以後より

宋より歸て至元三年十一月廿四日寂以

環溪惟一

無準の嗣之壽八十

久能田尔

和僧

弘安三年十月十六日寂以聖一因沙

と溢以末福寺の開祖あり

日本因沙号の始し

愚極智慧

石田の嗣之佛心源沙と号以

頑極沙弥

癡絶の嗣あり



虚堂智愚 運庵の嗣咸淳五年十月七日寂以年八

簡翁居敬 癡絶の嗣あり

石帆惟愨 運庵の嗣あり

業溪道隆 無明の嗣之建長寺の開祖弘安九年

七月廿四日寂以火堂深沙号以

横川行洪 減菴の嗣あり至元廿六年二月十八日

寂以壽六十八

夢堂曇噩 元叟の嗣普海深師と号以生涯不素

と用いざり人々至元七年山寂以壽七十九

梵石梵琦 元叟の嗣之西庵を人惠升深師と号以

洪武二年七月廿六日寂以年七十九

希元道元 和偈 長翁の嗣之佛法深師と号以建長五年

八月廿八日寂以年五十四

○加藤三郎右衛門道元深師と号以入唐以世

者三郎といふ 茶入の 秘傳之

鉄壁徳富 頽極の嗣あり

一山一寧 頽極の嗣之弘濟園沙と謚以文保元年

九月廿四日寂以年七十一

南浦昭明 和偈 虚堂の嗣あり大徳園沙と号以元祐元年

崇福寺の開山延慶元年十二月廿九日寂以

大徳園沙の師あり

虚石如芝 虚堂の嗣あり



西澗子曇 石帆の沙より大通禪師と号して徳治

元年十月廿八日寂して年五十八

約菴法儉 榮漢の嗣之仏燈園沙と謚して元應二年

八月十九日寂して年七十八

大休正念 石漢の嗣より佛源禪師と号して正應

二年十一月晦日寂して年七十九

蕪江覚恩 横川の嗣より

古林清茂 横川の嗣之休居叟と号して

真龍徳吉 愚極の嗣より

古田徳垢 愚極の嗣之曆應二年正月十一日寂して

号峯顯日 和傳 後出雲親帝の皇子子正和元年十月

廿日寂して年七十八

無関普門 和傳 聖一の嗣之南探寺の開山大明園沙と謚して

正應四年十二月十二日寂して年八十

竺仙梵仙 古林の嗣より来く探沙と号して貞和四年

七月十八日寂して年六十七

石室善欽 和傳 古林の嗣より康應元年九月廿二日寂して

了庵清欽 古林の嗣より南堂と号して利休百舎中

始曇蹟と号して至正廿二年癸卯八月廿六日寂して

明極楚俊 虎窟の嗣之龍慧探沙と謚して建武二年

九月廿七日寂して

月江正印 虎窟の嗣より松月翁と号して



寂室元光

和傳

約翁の嗣之曰長孫沙と号して貞治二年九月

朔日寂以壽七十八永源寺の開祖之始也美濃

臣と号す時新田義貞公度々招き沙は

命よ忠告を以て辭す題して去る其文又曰

新田義貞一國の主は寂室元光は三界無庵之

三界の度々を以て何ぞ一國の權を以ておらんや

天下に抑へざるも其の心をかすは

けしきのみならず其の心もあは

可翁宗然

和傳

南浦の嗣之大聖孫沙と号して堺深樂寺乃

關山慧玄

和傳

大燈の嗣之覺照孫沙と号して妙心寺乃用

祖より延文五年十二月十二日寂は

雪村友梅

一山の嗣より美濃孫沙と号して貞和二年

十二月二日寂は

中峯明本

三峯の嗣より美濃國沙と溢して趙子昂

美濃孫沙と号して貞治二年癸亥八月十四日寂は

平石如砥

東嶺の嗣之

美濃疎石

和傳

三峯の嗣より正覺國沙と号して天龍寺

の開祖親之二年九月晦日寂以壽七十八

春屋妙葩

美濃の嗣より善明國沙と溢して相玉寺の

開祖嘉慶元年八月十二日寂以壽七十八

絶海冲津

美濃の嗣之翊聖國沙と溢して永承十二年



四月五日寂以年七十

玉腕梵芳日

去屋の嗣有り南浮木の僧業と云く画の辨

日

虎関師鍊日

東山の嗣有り本覺因沙と溢以貞和二年

七月廿四日寂以六十九

椿庭海壽日

竺仙の嗣有り本杯と号以

見心来復

南楚の嗣有り蒲庵と号以

愚中周及

和僧

即休の嗣有り應永十六年八月廿五日

寂以年八十七

馮子振海棠

中峯の嗣有り

密雲因性

千島の嗣有り崇徳十五年七月七日寂以

年七十七

費隱通容

密雲の嗣有り

隱元隆琦

費隱の嗣有り黄壁山開祖延寶元年

四月三日寂以壽八十二

本庵性瑠

隱元の嗣有之享元年甲子正月廿日寂以

○大徳寺歴代

大徳寺中南北の両流の其初ハ云々事も  
おし直つゝ東漢古岳より法録云と云云紹臨  
以外の名通悉く北流より承継以故よ水派と  
記し之を南派と記さざ

大徳因師

号宗峯名ハ妙起姓之紀氏弘安五年播磨  
揖四縣より生れ父ハ浦上掃部入道覺性と云云赤松



四心の宗族之廿二歳大徳國沙南浦紹明と深し  
 終之徳明と得し正和四年乙卯大徳と成建匠  
 嘉暦元年丙辰臘月開書河ノ年四十八  
 花園帝興祿大徳國師の号と賜ふ  
 後醍醐帝正徳の二字と加くあふ元弘二年  
 震翰と深め本朝無双禪苑と賜建武四年丁丑  
 十二月廿二日寂以年五十六塔成雲門庵といふ  
 持興禪大徳と照正徳大徳雲匠真弘鑑帝  
 明曰滿淨光國師の号と賜ふ

徹翁義亨

大徳の嗣あり大徳第一世大徳正眼禪師  
 大徳大現國沙慈安二年己酉八月十八日寂以年七十六

言外宗忠

大徳の嗣あり大徳第七世密傳正印禪師と  
 号以明徳元年庚午十月九日寂以年七十六

華叟宗曇

言外の嗣あり贈大徳大徳弘智禪師正長  
 元年戊申六月十七日寂以

養叟宗願

華叟の嗣あり大徳第二十六世宗忠大照禪  
 師と号以

春浦宗賢

華叟の嗣あり大徳第四十世正統大泉禪師と  
 号以明徳五年丙辰正月十四日寂以壽八十八

一休宗純

華叟の嗣あり大徳第四十七世  
 後小松帝の皇子夢園桂雲驛驛國系と号以文

明十二年辛丑十一月廿一日寂以年八十八



墨裔紹等 一休の嗣あり号止磔没倫明長元年壬子

又月十六日寂以壽八十二

實傳宗真 玄浦の嗣あり大徳元又十四世佛宗大弘

源沙永正四年丁卯四月八日寂以年七十四

古岳宗直 實傳の嗣之大徳元七十六世近江の人字多

源氏六角遠江守政頼の子弘正統源沙正法大聖

國師と号以天文十七年戊申六月廿四日寂以

年八十四水派の至宰あり

傳庵宗器 古岳の嗣之大徳元八十八世号懶師天文

二年癸巳二月十一日寂以年五十一

大林宗套 古岳の嗣あり大徳元九十世孫家替櫻之

左海塩穴寺の開山佛印国燈源沙正覚普通国

師永禄十一年戊辰正月廿七日寂以壽八十九

江隠宗顯 古岳の嗣之大徳百二世国智常照禪師

笑嶺宗新 大林の嗣あり大徳百七世号唱雲利林居

士冬源の沙あり紐心本光源沙天文十一年癸未

十一月廿九日寂以年七十九

春屋宗因 笑嶺の嗣あり大徳百十世号一黙子朗源

天真源沙大寶因繼因沙と号以慶長十六年

辛亥二月九日寂以年八十二

仙岳宗洞 笑嶺の嗣之大徳百廿二世号無底籃金

七箇の類ハ此和尙の号あり文禄四年乙未十月



二日寂以年八十三

一凍紹滿

笑嶺の嗣なり大徳百廿六世号野檀子明堂

古鏡深沙と号以慶長十一年丙子四月廿三日

寂以壽七十四

玉南紹琮

古溪の嗣なり大徳百二十世細川幽谷の

号号半泥子大悲廣通深沙慶長十八年二月

十八日寂以年六十八

萬江宗程

春屋の嗣之大徳百廿四世徳輝普焼禪

師号長十九年甲寅七月四日寂以年七十三

榮叔宗秀

古溪の嗣なり大徳百四十二世慶長五年

唐子八月十二日寂以

雲英宗偉

仙岳の嗣なり大徳百四十一世号長八年

癸卯十月四日寂以年四十四

月岑宗印

古溪の嗣之大徳百四十二世号片庵大真

田光深沙元和八年壬戌四月又日寂以年六十二

玉室宗珣

春屋の嗣之大徳百四十四世号睡子直指

山源深沙寛永十八年辛巳六月十四日寂以年七十

沢庵宗彭

一凍の嗣なり大徳百六十二世東海寺の

開山号真々正保二年十二月十一日寂以年七十二

江月宗琬

春屋の嗣なり大徳百五十六世号欠伸子

糟袋子津田宗及の子大深興宗深沙寛永廿年

癸未十月約日寂以壽七十



賢谷宗良

玉浦の嗣あり大徳百六十九世卒寛慶滿

保沙之和七年辛酉十月廿五日寂以年六十八

文室宗周

萬江の嗣あり大徳百六十六世号晴螢子

寛永十七年庚寅九月七日寂以年六十九

天祐紹杲

萬江の嗣あり大徳百六十九世号夢伴子

寛延史素非子仙海祖焼保沙号安二年

後水尾上皇沙之仙洞之清を入室の法成僧

乙未寛文六年丙午九月廿一日寂以壽八十一

清富宗渭

賢谷の嗣あり大徳百七十世自笑孤陋と

号以清淨中然保沙寛文元年辛丑十一月

廿一日寂以壽七十四

安室宗閑

江月の嗣あり大徳百七十六世号洋程子

正保四年丁亥四月十日寂以年六十八

江雪宗立

江月の嗣あり大徳百八十一世号不処無破

鞋子看松初任大細智海保沙寛文六年丙子

六月中九日寂以壽七十九

江雲宗龍

江月の嗣あり大徳百八十四世小堀遠州政一

の男号任運子田惠靈通保沙孤蓬の初任

延寶七年己未六月十七日寂以壽八十一

玉舟宗璠

玉室の嗣あり大徳百八十五世号喜慶山

人喜膳子大微妙無保沙寛文八年丁酉

十一月十八日寂以年六十九



仙溪宗春

龍崗の嗣有り大徳百八十九世号冷英子

靈輝惠明孫沙文亨元年甲子十一月某日

寂以壽八十

天室宗竺

玉室の嗣之入徳百九十世号一如子大覚

回明孫沙寛文七年丁未八月廿八日寂以壽八十

舊山宗英

天祐の嗣有り大徳百九十四世号宗眠子

明暦二年丙申七月廿六日寂以

翠峯宗砥

江月の嗣之入徳百九十九世号泉菊の人号

似玉栖芦子法雲大伴孫沙寸松二世寛文四年

甲辰七月廿二日寂以年五十七

傳外宗左

天祐の嗣之入徳百九十六世号凍雲子

大通智滝孫沙延慶二年乙卯四月二日寂以  
年六十八

乾英宗覃

清崗の嗣有り大徳百九十八世号未納

惠燈神照孫沙寛文十二年壬子十二月廿九日

寂以年六十二

春沢宗見

玉舟の嗣有り大徳二百一世号録七之年

甲戌閏八月六日寂以壽八十二

寶堂宗傳

清崗の嗣有り大徳二百二世号如倚法

雄直孫孫沙延慶四年丙辰九月廿八日寂以年六十四

一溪宗什

玉舟の嗣之入徳二百十一世号普通孫

沙天和四年甲子六月十六日寂以年六十七



祥山宗瑞 天室の嗣より大徳二百十四世号多月

道人大同院智深沙永禄六年癸卯十二月

十六日寂以寿七十八

天倫宗忽 清高の嗣より大徳二百十六世号不可得

其英法監深師元禄十年丁丑六月廿二日寂以

質休宗文 江雲の嗣より大徳二百廿八世小堀遠州

季子同機去徳深沙元禄二年己巳十一月

廿八日寂以年八十四

大心義統 天倫の嗣より大徳二百七十九世号巨紗

子小心子蓮花童子享深十五年庚戌六月

七日寂以年七十四

龍嵩宗棟 月溪の嗣より大徳二百八十七世号中雲

寧際真空深沙元文六年辛酉二月廿一日寂以

年七十八

竺嶺宗悟 雲秀の嗣より大徳二百十四世延享二年

丙寅六月廿日寂以年六十九

菅谷宗珩 陽峯の嗣より号徳練

大徳宗文 菅谷の嗣より大徳二百四十一世号兼庵大系

正宗深沙寛延四年辛未三月十六日寂以年五

藍谷義田 練了の嗣より大徳二百四十二世宝暦二年

丙子八月七日寂以寿六十四

萬俣宗岱 菅谷の嗣号徳深練云般若中興明和



二年丙戌十一月廿七日寐以

龍門宗禹 大龍の嗣有り号樞室堂緋蕭子梁山

寛延九年戊辰十月廿五日寂以年廿八

萬輝宗旭 天溪の嗣有り大徳二百七十世

無學宗祈 龍門の嗣有り大徳二百七十八世号把不住

至聖大妙釋沙寛政二年辛亥正月十六日

寂以或ハ庚戌十月廿五日 壽七十

堯洲宗寛 斗山の嗣大徳二百七十九世

要道宗三 揚林の嗣大徳二百九十八世

○珠光以来表釋の師

珠光の二休 紹臨の大林 利休の笑嶺

鐵船の春屋 菽肉の玄屋 二齋の清嵩

少庵の兼叔 元伯の玉室 江岑の清嵩

随流の一溪 原叟の大心 如心の大龍

畔菴の玄學 石洲の玉舟 玄洲の江月

宗編の祥山 一翁の玉舟 仙叟の乾英

了くハ 要道 普齋の乾英

○画家之類

茶家用ゆはの繪ハ洋画之足利家御物目録  
依て云ふは後人の名ハ相阿弥の筆ニ從ふ

○唐

韓幹 馬の画と工を曹霸と号せり







馬遠

興祖の孫世榮の子なり山水人物花鳥を画く。善く  
妙といふ。宣和院人中の独歩なり

夏珪

字禹玉山水人物よりなり

馬麟

遠の子なり他家学を嗣く馬遠其子と云へり  
己が画上と馬麟と落款をけぐ。其子の養を  
得んてて改称しをなり

梁楷

号梁风子山水人物鬼神を画くよりなり  
嘉泰年中画院待诏と成る

李龍眠

名ハ公麟字々伯时嘉祥の名子の此の  
はとけりて以て己が有とて専ら一家とて宗画  
中の才一とて嘉古と照映は

胡直夫

人物牛馬と云ふ

樓觀

山水人物花鳥と云ふ

李安忠

水禽野鳥を善く畫す。宣和画院待诏  
紹興中受賜金帯より

李迪

山水花鳥牛馬石木よりなり李安忠と名成  
いと云ふ

高然輝

名々克明又克恭字ハ彦敬号房山花鳥  
山水と云ふ

李唐

字ハ晞古山水人物牛馬と云ふ

李嗣

字々山水よりなり  
人物花鳥と云ふ



陳所翁

名ハ容字ヲ公儲龍ト画クヨシ生働ノ氣紙上ニ  
溢ル宋画中龍ト画ク者其右ニ出ル者ナク  
名考一時ニ冠スル

閻次平

山水人物牛トユウリ

文同

字ハ子可山水竹石ニ精妙ナリ

宋元章

名ハ芾山水トユウリ又蒼々竹石トユウリ

宋友仁

元章の子ナリ字ハ元暉山水トユウリ家考  
と隊トユウリ

葛長庚

号玉蟾山水野ト水禽トユウリ

趙子昂

名ハ孟頫山水墨トユウリ

趙子昂

名ハ孟頫山水墨トユウリ

楊補之

名ハ先咎号逸禪又清夷長者ト号以梅竹トユウリ

李嵩

錢塘の人ト人物道釈トユウリ

趙子固

名ハ孟堅号彝叔山水墨梅トユウリ

日觀

名ハ子温字ハ仲言号知歸蒲萄ト画トユウリ

仲華光

叔仲仁梅トユウリ

○元

楊月澗

花鳥沈虎トユウリ

柏子庭

枯木曾蒲トユウリ

錢舜舉

名ハ選号玉潭又巽峯山水人物花鳥トユウリ

王若水

名ハ測号澹彩山水人物墨トユウリ

趙子昂

名ハ孟頫号松雪主人山水人物トユウリ

趙仲穆

名ハ雍号昂の子ナリ山水牛トユウリ

○茶道荃蹄卷之三



孫君澤

山水人物意多とよく以

張芳汝

山水人物牛とよく以

雲憲

釈の善明芝菜とよく以

顏輝

字秋月道釈人物鬼神様多とよく以

王元章

梅と画くよ一世と独歩以

夏明遠

山水樓閣と画く風韻餘情以

檀芝瑞

竹とよく以

周陀羅

胡僧より人物佛像とよく以

○明

文徵明

字徵仲号衡山山水とよく以

陳洪綬

字章侯山水意多人物とよく以

唐伯虎

名ハ寅号ハ必居士山水人物意多とよく以

画名一時と盛なり

仇英

字實夫号十洲山水意多とよく以

戴文進

名進号静庵又玉泉山水樓閣とよく以

沈周

字ハ啓南号石田又白石翁と号以山水人物意

多とよく以

○和画之類

可翁

名宗然号良全南浦の嗣より以人物と画く

貞和元年乙酉四月廿五日寂以

玉腕子

名ハ梵尼号去屋妙葩葩の嗣之知是類と号以象

竹とよく以 強みの幼 目も出つ



兆殿目 明兆号吉山又破神種と号以

足利義政公 世又東山殿と称以号天山延徳二年庚戌

正月七日薨以壽六十六

如拙 相國寺の僧より宗元の画風拙より始り

周文 号春音相國寺の教目

雪舟 名ハ等揚号信濃斎又宗元山主と号以永正

三年丙寅八月十七日寂以年八十七

小栗宗丹 号自牧周文と号し一を後一家とる次

小栗宗栗 宗丹の子より晩年大徳と云寓以

曾我蛇足 越後の人周文と号とを

啓書紀 達長寺の僧祥啓号雪溪又負樂斎就庵

休月齋号の号より

揚月 <sup>カサギ</sup>笠蓋の僧号和玉周文或云雪舟と号と次

山田道安 名ハ順貞民教と称以和州の人周文雪舟と

号し宗画と法と次子孫家法と傳へて二世同下

とりら也

能阿弥 東山殿茶道号春路秋去能

藝阿弥 能阿弥の子と云藝号学叟

相阿弥 藝阿弥の子号鑑岳又松雪毎と号以子小

傳阿弥といふ有り子世以

雪村 俗名田村年菟法名周继号鶴舟去翁

等顔 号雲谷雪舟号傳二世



松花堂 名昭景号惺々翁寛永十六年己卯九月

十八日寂以年五十六

土佐光信 廣周の子左近将監又任以

同 光起 中興の祖左近将監從五位下又叙以号春

可軒法名常昭

同 光成 光起の男刑部左補又任以

同 光祐 光成の男初名光言左近将監又任以

同 光芳 光祐の男左京進

同 光淳 光芳の男土佐守正又任下又叙以

同 光貞 光芳の二男土佐守正任以

同 持野元信 曰那次郎大炊助越前守号玉川永祿

二年己未十月六日卒以壽以九十七

同 雅樂助秀信 威ハ之信号彌隱元信の弟

同 松榮直信 元信の子民部右法眼文祿元年壬辰

十月廿一日卒以年七十六一説は七十八

同 永徳州信 又重信源曰郎右京松榮の子あり

天正十八年庚寅九月十四日卒以

同 玉樂 元信門人北條氏政の侍

同 孝信 永徳の男右近将監

同 探幽斎守信 采女と稱以又同の法下又叙以孝

信の子延寶二年甲寅十月七日卒以壽以七十三

同 自通斎尚信 主馬と稱以始の名ハ一信孝信の二男



慶長二十一年庚寅四月七日卒以年四十四一説四十七

門 牧心安信 右系と称以号永志孝信の子あり

門 山樂光頼 本村永春の子永徳門人寛永十二年

乙亥八月卒以年七十七

門 山雪 山樂の子あり通称縫殿助号蛇足軒

門 探信 探函の子あり通称圖書名八守政

門 探雪 探函の二子あり名八守定号孟隣叔

門 常信 尚信の子あり法号二叙以号古川又表外

耕寛叔等の号あり正徳二年癸巳正月廿七

卒以年七十八

門 周信 常信の子あり通称右近号如川

長谷川等伯 通称久六雪舟と宗と自ら其子代

と称以

門 信春 等伯の子通称久藏号力又と起る

門 等的 等伯門人

海北友松 名を紹益永徳門人後一家とる

門 友雪 友松の子あり家風と嗣ぐ

喜多川宗達 京沙の人猿屋對善といふ

尾取光琳 京沙の人 東福門院と住方院又々

舎長江新等の号あり

英一蝶 初の名は多賀信香安信門人後一家代る

号潮湖小雲翁享保九年甲午九月十二日卒



年七十四

鶴沢探山 石守直探幽門人幼ハ幽泉ト号ス

久須見守景 通称中兵衛雪信の夫ナリト下稱ト号ス

探幽門人

雪信 探幽の姪孫ナリ清原氏ト稱ス

○連歌師之類

種玉庵宗祇 紀州の人自然社ト号シ山法師初助の

門人天文二年壬戌七月廿七日卒以壽八十二

猪苗代兼載 宗祇門人耕宗社ト号シ永享七年庚午

六月六日卒以

柴屋新宗長 宗祇門人天文元年壬辰二月六日没

泉谷ヲ卒以年八十八

牡丹花宵拍 宗祇門人三堂坊多庵ト号シ大永七年

丁亥四月八日卒以年八十五

振井基祐 宗祇門人通称弥三郎永仙ト号シ

里村昌休 花下宗道名ヲ堯景天文廿一年壬子

十一月又日卒以

昌比 昌休の子ナリ策庵芦筆社ト号シ孝長

八年癸卯七月廿四日卒以年六十五

紹巴 昌休門人南都の人隠江社寶珠庵ト

号シ孝長七年壬寅四月十二日卒以年七十七

一統  
七十九

○茶道筌蹄卷



北村季吟 拾穂軒又呂庵等の号より法承叙以  
寶永二年卒以壽八十八



茶道卷之二

終

永平八十八



